うしくサイエンスフェスタ 2013 への参加報告

利光誠一・吉田清香・兼子尚知（産総研 地質標本館），小長谷達郎（筑波大学）

恒例の行事として定着してきた「うしくサイエンスフェスタ」が 2013 年 2 月 2 日（土）に茨城県牛久市中央生涯学習センターで開催されました．このイベントは，牛久市教育委員会と地域の関係機関が協力して開催する科学イベントで，今回で 7 回目の開催です．今回のイベントでは，「サイエンス・ラボ」として，牛久市内の小中学校・高校，民間企業，NPO 法人，サークル，および近隣の研究機関・科学館等が集い，科学実験や工作のできる 20 種類のブースが出展されました．同時進行で，牛久市内の学校と県外の学校から環境学習の報告と交流を行う「カッパ大交流会」が開催されました．地質標本館では 2007 年の第 1 回以来毎年ブースを出展しており，今回も簡単な化石レプリカの作成体験のできるブースを企画運営しました．当日は，天候にも恵まれ，会場全体で 600 名ほどの入場者が訪れ，地質標本館のブースでは 80 名あまりの子供たちが樹脂粘土によるアンモナイト化石のレプリカ作りを体験しました（写真 1）．樹脂粘土によるレプリカ作りの方法については，井川ほか（2007: 地質ニュース , no. 607, p. 61–64）で詳しく報告していますのでそちらを参照してください．最近では，化石を自宅に所有しているという子供たちもいますが，一方で化石そのものを見たことのない子供たちも多く，それらの子供たちにとっては実物の化石を直接見ることができ，さらに直に触ることもできるこのイベントは新鮮なようです．はじめは（どうせレプリカだろうと）机の上に置いている化石を遠巻きに見たり触ったりしている親子に，「これは本物の化石だよ」と教えてあげると，驚いてあらためて化石を触り，その感触を確かめる姿がいつもながら微笑ましく感じられます．そして実物の化石の楽しさを伝えることの大切さを実感します．地質標本館では，これからも実物の標本を使用する体験学習イベントを企画し，子供たちに地球科学に対する関心を高めていただきたいと考えています．

写真 1　地質標本館の出展ブースの様子.

全国科学博物館協議会平成 24 年度第 2 回総会および研究発表大会参加報告

角井朝昭・下川浩一（産総研 地質標本館）

標記会合が2013年2月28日（木）と3月1日（金）の2日間，愛媛県新居浜市の愛媛県総合科学博物館（写真1）で開催されました．協議会に加盟している54の機関から88名の出席者があり，産総研地質標本館からは下川と角井が参加しました．

全国科学博物館協議会には，国内の科学系博物館など223機関が加盟しており，毎年2回開かれる総会・研究発表大会では，それぞれの施設における展示・イベントなどの事例や，運営上の問題点などが紹介されます．

今回，会場となった愛媛県総合科学博物館は，地球科学を含む展示エリアである「自然館」の大規模な改修を2011年度に行ったとのことで，博物館の目玉展示である動く実物大恐竜模型2体を中心に岩石・鉱物・古生物などの展示も一新されていました．別フロアには別子（べっし）銅山の説明コーナーなどもあり，地元に関する展示が充実しているという印象を持ちました．

2月28日の総会では，2013年度事業計画(案)等の議案について協議会事務局より説明のあと採決があり，承認さ

れました．その後，2013年1月に実施された2012年度海外科学系博物館視察研修（当年度はヨーロッパ）の報告，文部科学省生涯学習政策局社会教育課長の伊藤学司氏による博物館の現状と施策についての行政説明と続き，最後に東京都教育委員長・文部科学省顧問の木村　孟氏による「科学系博物館への期待とこれから」と題する記念講演がありました．講演終了後，展示施設見学会に参加するとともに，閉演後に館内レストランで開かれた懇親会に参加し，出席された各館の方々と意見交換を行いました．

翌3月1日午前中に，開催館の学芸課長である岩田憲二氏による「総合科学博物館の組織改変と大規模リニューアル」，また日本NPO学会会長の田中弥生氏による「コミュニティーとしての社会教育施設への期待　～ドラッカーの教え～」の各講演がありました．前者の講演では，博物館の運営全般に関する問題として，開催館の愛媛県総合科学博物館で導入された指定管理者制度の経緯や運営状況の紹介があり，地方公共団体に所属する多くの博物館からの参加者にとって興味深いもののようでした．午後からは，2つの会場に分かれて，各施設で実施された様々なイベント，地域の教育機関をつなげる仕組み，博物館友の会やボランティアとの連携強化，および自然史系博物館の広域連携等について，事例発表が行われ，活発な意見交換が行われました．

写真1　愛媛県総合科学博物館．

2013年度の第2回総会および研究発表大会は，2014年2月下旬～3月上旬に，北九州市立自然史・歴史博物館において開催される予定です．

【スケジュール】

5月15日～17日	International Geothermal Congress（IGC 2013）（Germany, Freiburg）
5月17日	大ひずみ領域を考慮した土の繰返しせん断特性に関するシンポジウム（地盤工学会（JGS会館），東京都文京区）
5月18日	日本地下水学会2013年春季講演会（千葉大学松戸キャンパス，松戸市）
5月19日～24日	地球惑星科学連合2013年大会（幕張メッセ国際会議場，千葉市）
5月20日	第17回日本ジオパーク委員会・公開プレゼンテーション（幕張メッセ国際会議場，千葉市）
5月20日～24日	8th International Mesostructured Materials Symposium（IMMS-8，IMMS2013）（淡路夢舞台国際会議場，淡路市）
5月22日～24日	GAC-MAC Annual Meeting : Winnipeg 2013（Canada，Winnipeg）
6月9日～14日	第14回水－岩石相互作用国際研究集会（WRI-14）（France，Avignon）
6月14日	日本リスク研究学会シンポジウム（東京大学山上会館，東京都）
6月18日～20日	SINOROCK2013, The 3rd ISRM Symposium on Rock Mechanics “Rock Characterization, Modeling and Engineering Design Methods”（China, Shanghai）
6月23日～26日	47th US Rock Mechanics/ Geomechanics Symposium（USA, San Francisco）
6月24日～28日	AOGS 10th annual meeting（Australia, Brisbane）

◆編集後記◆

つくばでは最低気温10℃以下，北海道では積雪など，全国的に寒い5月ですが，今月の特集は，秋なのに連日30℃超えの猛暑の中開催した「地質情報展2012おおさか」．利光氏他の「化石レプリカ作り」，佐藤氏他の「石割り」，兼子氏他の「鳴り砂」，坂野氏の「地学クイズ」など子供達に人気の定番ブース群に加え，今西氏他の「地震の揺れ」，兼子氏他の「液状化」，吉川氏他の「津波」と3･11の影響を意識した地震災害関連ブース群は，今西氏の「開催報告」によると多くの来場者の期待に応えたようです．西洋では「ない物ねだり」を「傷のないエメラルドを求める」と例えるらしく，理由は奥山氏の記事をぜひ．モース硬度が高くも脆いエメラルドは激しい環境を経ているせいか，私たち日本人と似ていると思えるのは，きっと特集号の副作用……　山津波の崩壊跡を，森尻氏他の連載では「薙」と呼ぶとの紹介．海山問わず薙ぎ払われたのは，見えている・いたものばかりではなく……　そして，次回の地質情報展は，3･11の復興の只中にある仙台市で開催．地元が負った傷はあまりにも深く，展示内容にも配慮が必要ですが，「明日を生かす」ために，内容厳選で臨みます！　頭尾後前，表紙は七山氏提供のイベリア半島沖の夕日．時間・場所・気持ちを変えると同じ太陽が一度たりとも同じに見えないなどと考えつつ，「日本では，今から昇らんとする太陽だ！」と気づき，何だか縁起の良さを感じて，これにて失礼いたし候．

（5月号編集担当：住田達哉）